

リサーチクエスションの作り方

—問いづくりを通して多文化共生に触れる多文化共生に触れる—

氏名:高市 佳名子

学校名:大阪教育大学附属高等学校池田校舎

担当教科:国語科

実践教科:グローバル探究Ⅰ(総合的な探究の時間)

時間数:1時間

対象学年:第1学年

人数:80名×2時間の160名

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）：		
・今後のグループ探究での活動を前に、リサーチクエスションの作り方を知る（知識・技能） ・グループで協力し、「日本に住む外国人」をテーマにしたリサーチクエスションを作る（思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）		
【2】 単元の評価 規準例	（ア）知識・技能	課題を理解し、グループで話し合いワークシートに記入している（行動の観察）
	（イ）思考・判断・表現	課題を理解し、グループで話し合いワークシートに記入している（行動の観察）
	（ウ）主体的に学習に取り組む態度	グループワークに積極的に取り組んでいる。（行動の観察） 新聞記事や、ワークシートを提出している。（提出物の確認）
【3】 単元設定の 理由	【生徒観】 課題に対して前向きに取り組む生徒が多い。課題研究に取り組むのは初めてである。昨年度までは、課題研究とは何かについて学ぶ機会が少ないまま、グループ探究に入ったことで研究方法に戸惑う生徒も多かった。SDGsについての知識も、出身中学校によってさまざまである。今年度はこれまでよりも丁寧に研究の仕方について学ぶ機会を設けることで、さらに質の高い研究活動ができることを期待している。	
✓ 児童/生徒観 ✓ 教材観 ✓ 指導観 ✓ 設定時に想定された児童・生徒の変容	【教材観】 新聞記事を用いて、リサーチクエスションを作る練習をする。SDGsをテーマにした探究活動を行っていくなかで、SDGsが誓っている「誰一人取り残さない（leave no one behind）」という考え方を再度確認したい。この考え方は、「多文化共生」にも通じるものであるだろう。生徒たちが各自持ち寄る新聞記事のテーマは、「日本に住む外国人」とした。「日本に住む外国人」に関する新聞記事について問いを出しあい、また、研究にふさわしい問いをグループで合意形成する。そのことによって、2つのことを学ばせたい。 第一に、リサーチクエスション作る方法を身に着けることだ。リサーチクエスションを作ることができるようなテーマとはどのようなものであるかをワークによって実感し、リサーチクエスションを作る練習をさせたい。「グローバル探究Ⅰ」の教科書として使用している『課題研究メソッド』を使用し、7つの問いの種類（①言葉の意味や定義を問う「問い」②原因（なぜ）を問う「問い」③信ぴょう性を問う「問い」④比較を行う「問い」⑤先行研究・先行事例を問う「問い」⑥影響を問う「問い」⑦方法や関連性を問う「問い」）	

	を知り、それに従って問いを出す。その中から「すぐに答えの出ない」問いを選択し、リサーチクエスションへと発展させる。 もう一つは、問いを作る中で多文化共生について「知らなかったこと」に意識を向け、問題意識を持つことである。こちらが提示する課題ではなく、生徒自ら選んできた新聞記事を用いることによって、「多文化共生」に関する問題を自分ごととして捉えられ、と考えた。「日本に住む外国人」は、扱い方によってはセンシティブなテーマにもなりうるが、「多文化共生」について学ぶためには避けることができない事柄だ。選択できる記事も幅広く、テーマ設定として適切だと考えた。 <u>【指導観・設定時に想定された生徒の変容】</u> 本校では、グローバル探究Ⅰ〔１単位〕（学校設定科目。総合的な学習の時間としての位置づけ）と、２年生において開講されるグローバル探究Ⅱ〔２単位〕の２年間を通じて、SDGsをテーマにした探究活動を行っている。本年度のグローバル探究Ⅰでは、１２月より開始するグループ探究に向けて、「SDGsの17のゴールについて」（４～７月）、および、「課題研究の行い方」（８～１１月）について学んでいる。 私がJICA教師国内研修において学んだ多文化共生について、実践を行うにあたり、本校のカリキュラムでは１時間しか確保することはできなかった。１時間という短い時間の中で多文化共生について生徒たちが少しでも理解するためには、「多文化共生」にはまだ問題が山積しており、それは身近なものであることに気付くことが有効であると考えた。授業者が「教える」のではなく、生徒たちが自分で選んできた新聞記事についてクラスメイトの力を借りて言語化していく中で問題に気付くことを期待している。
--	---

【４】展開計画（全１時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
１ 本時	・リサーチクエスションの作り方を知る ・グループで協力し、「日本に住む外国人」をテーマにしたリサーチクエスションを作る	・「日本に住む外国人」に関する新聞記事を持ち寄り、グループで共有する。 ・まだわかっていない「問い」が出そうな記事をグループで一つ選ぶ。 ・選んだ新聞記事について、「問い」を作る。 ・「問い」を検証し、リサーチクエスションに発展させる。	・教科書『課題研究メソッド 2nd Edition』岡本 尚也 ・新聞記事 ・ワークシート（資料１）

【5】本時の展開			
過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
事前	・ 前時（1週間前）の授業において、宿題の連絡を受ける。 ・ 宿題は、「『日本に住む外国人』に関する新聞記事の一つを選び、次の授業で持ってくる。」	・ 宿題を提示する。ネット記事でもよいが、出典に気をつけるよう注意喚起する。校内で新聞を閲覧できるスペースも用意した。宿題忘れを減らすために、前日までに選んだ記事を Google Classroom で提出させる。	
導入 (5分)	・ 本時の目標を知る。 - 課題研究とは何か（既習）について説明を聞き、復習する。		授業全体を通して、資料2のスライドを使用した。
展開 (35分)	・ WORK①「探究にふさわしいテーマ探し」に取り組む。 ・ 4人のグループになり、持ってきた記事を共有する。 ・ 1人が1分間で記事の概要を説明した後、残り3人は、記事について「持ってきた人の考え・意図」がわかるような質問をする。残りの3人も繰り返す。 ・ 4人全員が終わったら、まだわかっていない「問い」が生まれそうな記事を、班で合意形成することで選ぶ。 ・ 選んだ新聞記事を「研究テーマ」として、ワークシートに記入する。 ・ WORK②「選択した新聞記事から『問い』を作ってみよう」に取り組む。 ・ 教科書を参照しながら、問いの種類を知り、問いの種類を意識しながら問いを作成する。	・ グループ活動が活発に行われているか、机間指導を行う。 ・ 課題の理解が不十分である生徒に対しては補足で声掛けをし、適宜全体へも声掛けも行う。 ・ 課題の理解が不十分である生徒に対しては補足で声掛けをし、適宜全体へも声掛けを行う。	ワークシート (資料1) 教科書：「課題研究メソッド」

まとめ (10分)	・WORK③「問いをリサーチクエストに発展させてみよう」に取り組む。 ・WORK②で作成した問いの中から、「すぐに答えが見つからない問い」を選び、ワークシートに記入する。 ・「すぐに答えが見つからない問い」を検証し、ワークシート「問いの検証」に記入する。 ・教科書の見本を参考に、リサーチクエストを作り、ワークシートに記入する。 ・授業者の指名によって、「どんな記事からどんなリサーチクエストができたか」発表する。 ・授業者による本時の目標についての確認と、まとめを聞く。 ・ワークシート②③を振り返りとして記入する。	・課題の理解が不十分である生徒に対しては補足で声掛けをし、適宜全体へも声掛けを行う。 ・班を1～2班指名して発表させる。	
----------------------	---	---	--

【授業実践の様子】

↓持ってきた新聞記事を共有する。合意形成して記事の一つを選択する。



↓選んだ記事から問いを作る。



↓リサーチクエストに発展させる



↓指名により発表



【6】本時の振り返り

生徒たちは、積極的に取り組んでいる様子だった。「多文化共生」のみをテーマにした授業はできなかったため、探究活動前の「リサーチクエストの作り方を学ぶ」という回を通して行った。

大きく2つの内容を1時間に行ったことで、生徒たちは深くは学べなかったかもしれない。しかし、一定の効果があつたことを次項より述べたい。

なお、生徒が選んだ新聞記事や作ったリサーチクエストの一例は【8.】4を参照。

【7】単元を通じた児童生徒の反応/変化

▼ワークシートの②「『日本に住む外国人』についての『問い』を作ることによってわかった自分の『知らなかったこと』について、なぜ『知らなかった』あるいは『知ろうとしなかった』と思いますか？

《生徒の記述》

興味関心がなかった/身近でないテーマだから/周りに在日外国人がいない/周りの人の気持ちになつていなかった/自分とは遠いものだから/差別について考えるのは心がしんどい/ニュースを見ていなかった

▼ワークシートの③「それを『知る』あるいは『知ろうとする』ことで起こりうる、自分や自分のまわり、社会の変化について想像して書いてください。

《生徒の記述》

知らなかったことを知ることは、その課題に対して意識的になる、つまり解決しようという気持ちも高まる/社会の中にはいろいろな人が色々な理由で困っている。どのように改善できるか考えられる/外国人が日本に住むことに何の違和感も持たなくなる/自分たちが受けている扱いとの違いに気づく/悲しい気持ちになつてもできることがあるはずなので、努力しようという気になる/周囲にそういう子がいたとき、孤立しないように寄り添ってあげられる

【単元を通じ変容した生徒の態度や学習意欲があれば記載下さい】

その後、6回の授業の中で実際に生徒たちはグループでみずからのリサーチクエストを立てて、探究活動および発表を行った。「日本に住む外国人」に近いテーマを選ぶ生徒はおらず、私が行った1回の授業では「日本に住む外国人」について身近に感じ、興味を持つ生徒はいなかったようで残念である。とはいえ、「みずからとは異なる者」を受け入れようとするようなテーマは数多く見られた。例えば、「紛争地域での教育をどうするべきか」や、「何を基準にスポーツにおける性別を分ければいいのか」等である。ファストファッションで、発展途上国が損をしないような仕組みについて考えたグループもあった。「当事者」の立場に立ってみるという多文化理解の根幹は伝わったのかもしれない。1年生では、本格的な探究活動をする時間は取れなかったが、2年生では1年間をかけて、個人で設定したテーマの研究をすすめていくことになる。彼らの今後の研究に期待したい。

【授業を通じた途上国・異文化・多文化共生等への意識の変容について記載下さい】

(授業前)

【7】における生徒の記述から読み取るに、このようなテーマは身近ではなく、興味・関心を持っていた生徒が少なかったことがわかる。また、知ってはいても、考えることは辛いテーマであることから、考えることを避けていた者もいた。多文化共生というテーマに限らず、ニュース自体を見ていないと答えた生徒も多かった。

(授業後)

【7】における生徒の記述で、「多文化共生」というのは新たな視点であったと答えた生徒は多かった。授業前には「身近ではない」と答えた生徒が多かった一方で、授業後には、「身近にそういう人がい

たら助けてあげたい、寄り添ってあげたい、近所に引っ越してきた外国人について考えたい」というように、「国」や「政府」という大きな単位をあげるだけではなく、身近な外国人について思いを寄せた意見が多数見られた。

また、「多文化共生」を理解するために大切な「当事者の気持ち」というところに思いを馳せた生徒もいたようであり、私が予想していた以上に、短時間で多文化共生の核心にまで、生徒たちは自らたどり着いていたようだった。

【8】自己評価

1. 苦労した点	短時間で、生徒の意識を変容させ、その変容が見える形になるような問いかけをすることは難しい。ワークシート②③の問いかけは半ば強引ではあった。 また、本校は国際枠入試制度があるにも拘らず、ワークシート②の内容から、「日本に住む外国人」を身近ではないもの、周囲に在日外国人はいないものとする思い込みがあったことは予想外であった。この意識は授業後もそこまで変えることはできなかったように思う。
2. 改善点	再度実施するのであれば、「日本に住む外国人は身近ではない」という思い込みを変えるような授業展開が望ましいと考えた。
3. 成果が出た点	「多文化共生」という考え方に初めて生徒が触れたという点で成果があった。高校生は、部活動に塾にと忙しい。新聞を読んだりニュースを見たりする時間もあまりないようだ。「自ら新聞記事を選ぶ」というのは、あまりしない体験だっただろう。そのことによって、探究のテーマというのは、周囲で起こっている「困りごと」に目を向け、耳を澄ませることから見つかるものだということに気付くことができたのではないだろうか。 この短時間で「多文化共生」の核ともいえる「当事者に寄り添う」というところまで考えた生徒もいたことは私の予想を超えた成果だったといえる。
4. 備考（授業者による自由記述）	本時を通じて生徒たちが作ったりサーチクエスチョンをいくつか紹介したい。 ・「ALTの欠員」についての記事から「ALTがいる学校といない学校でどんな差が生まれるのか」 ・「外国人技能実習生の不当な労働」についての記事から「日本において外国人技能実習生が受けている不当な労働に対して起こせる解決策は何か」 ・「外国籍の住民投票権」についての記事から「国がすぐに外国籍の住民投票権を認めない背景には何があるのか」 ・「外国人児童生徒の教育を受ける権利」についての記事から「全ての外国人児童が快適な学校生活を送るにはどうすればいいか」

添付資料：

リサーチクエストを作ろう

() 組 () 番 名前 ()

①リサーチクエストを作る

- ・『課題研究メソッド』p.55 を参考に記入します。
- ・グループワークですが、「全員」提出してください（表の内容はグループ同じ内容になるはず）

1. 研究テーマ

--

2. 研究テーマについて立てた問い (p.44 参照)

--

3. すぐに答えが見つからない問い (p.46、54 参照)

--

4. 問いの検証

・どこの地域が対象か？	
・どのような人やものが対象か？	
・いつの時代が対象か？	
・どのような状況を想定しているか？	
・どの学術分野 (p. 34) に関連するか？	

5. リサーチクエスト

--

- ②「日本に住む外国人」についての「問い」を作ることになった自分の「知らなかったこと」について、なぜ「知らなかった」あるいは「知ろうとしなかった」と思いますか？

--

- ③それを「知る」あるいは「知ろうとする」ことで起こりうる、自分や自分のまわり、社会の変化について想像して書いてください。→課題研究の意義となるもの

--

きつぎボール 座席表(2クラス)

教壇						スクリン					
1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	25	26	27	28	29	30
31	32	33	34	35	36	31	32	33	34	35	36
37	38	39	40	41	42	37	38	39	40	41	42

リサーチクエストの 作り方

2021/11/19 グローバル探究 I

本時の目標

- リサーチクエストの作り方を知る
- SDGsをテーマにした課題研究のために、「多文化共生」という考え方に触れる

そもそも課題研究(探究)とは何か

- 課題研究= 答えの用意されていない「問い」を見だし、より適切な手法を用いて探究すること(知識の論証・疑念解消・問題解決)

【『課題研究メソッド』p.12】

自由研究との違い

- 自由研究=自分の興味・関心のあるテーマについて調べる/観察する/実験する
- 課題研究=自分の興味関心のあるテーマ **かつ** 社会・学術の課題や自分の進路と関係しているテーマ(完全に自由じゃない)

【『課題研究メソッド』p.12】

調べ学習との違い

- 調べ学習=すでに明らかにしていることをとめて理解する。
- 課題研究=すでに明らかにしている情報に踏まえ(先行研究調査)、「問い」をたて、さらに調べ、問う過程を繰り返すことで、まだわかっていない「問い」に取り組む

*「問い」は探究の過程で変化していくもの
【『課題研究メソッド』p.12】

WORK①
探究にふさわしいテーマ探し

きつぎボール 座席表(2クラス)

教壇						スクリン					
1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	25	26	27	28	29	30
31	32	33	34	35	36	31	32	33	34	35	36
37	38	39	40	41	42	37	38	39	40	41	42

WORK① 探究にふさわしいテーマ探し 座席をシェアしよう!

(1)1人が、持ってきた記事の概要を説明する。
【1分間】

(2)他の3人は、記事について質問する。持ってきた人の考え・意図がわかるような質問を!【2分間】

(3)残りの3人も同様に繰り返す。

(4)まだわかっていない「問い」が生まれそうな記事の一つ選んでみよう。わからなければ、「たくさんわからないことがある記事」でOK!(班で合意形成してください)
【3分間】

(参考:山中授業(11年度後援校) スライド・高市校)

WORK① 探究にふさわしいテーマ探し 座席をシェアしよう!

(1)1人が、持ってきた記事の概要を説明する。
【1分間】

- どんな記事?
- いつ
- どこで
- 誰が出てくる
- 何について書いてある
- どんな状況
- など

(参考:山中授業(11年度後援校) スライド・高市校)

WORK① 探究にふさわしいテーマ探し 座席をシェアしよう!

(2)他の3人は、記事について質問する。持ってきた人の考え・意図がわかるような質問をしてください。【2分間】

- なぜその記事を選びましたか?
- その記事を読んで、どんな気持ちになりましたか?
- その記事は、どんな意図で書かれていると思いますか?
- その記事は、どんな人に対して、何を伝えようとしていますか?
- この記事について課題研究する意義は?
- など

(参考:山中授業(11年度後援校) スライド・高市校)

WORK① 探究にふさわしいテーマ探し 座席をシェアしよう!

2人目、3人目、4人目も同様にやってみてください。

WORK① 探究にふさわしいテーマ探し 座席をシェアしよう!

(4)まだわかっていない「問い」が生まれそうな記事一つ選んでみよう。
難しければ、「たくさんわからないことがある記事」でOK!
(班で合意形成してください)
【3分間】

選んだら、ワークシート「1. 研究テーマ」に記事のテーマを簡潔に記入してください(『メソッド』p.55)

WORK②
選択した新聞記事から
「問い」を作ってみよう。

WORK② 選択した新聞記事から「問い」を作ってみよう。

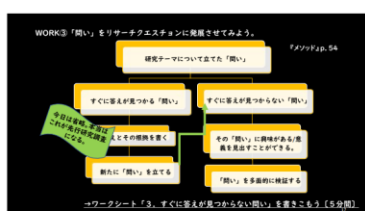
- 問いの種類を知ろう→『メソッド』p.44
- ① 定義の意味や定義を問う「問い」

「問いの種類」を参考にしながら、ワークシート「2. 研究テーマ」について立てた「問い」を記入しよう。【5分間】

*すべての種類を網羅する必要はない。
*「問い」の質は問わない。たくさん作ろう!
(『メソッド』p.55も参考に)

⑦ 影響を問う「問い」
⑧ 方法や関連性を問う「問い」

WORK③
「問い」をリサーチクエストに発展させてみよう。



WORK③ 「問い」をリサーチクエストに発展させてみよう。

「すぐに答えが見つからない問い」を検証しよう
→ワークシート「4. 問いの検証」に書きこもう
【3分間】

- どこの地域が対象か?
- どのような人やものが対象か?
- いつの時代が対象か?
- どのような状況を想定しているか?
- どの学術分野(メソッドp.34)に関係するか?

WORK③「問い」をリサーチエスションに発展させてみよう。
リサーチエスションをつくらう

→『メソッド』p.55を参考に
ワークシート「5. リサーチエスション」に
書きこもう。〔3分間〕

WORK③「問い」をリサーチエスションに発展させてみよう。
どんな記事からどんなリサーチエスションができたか？
いくつかの班に聞きますので、ロンドで発表できるように
班の中で整理してください。
〔1分間〕

まとめ

まとめ
本時の目標

- ・リサーチエスションの作り方を知る
- ・SDGsをテーマにした課題研究のために、
「多文化共生」という考え方に触れる
→記事のテーマ「日本に住む外国人」

まとめ
SDGsをテーマにした課題研究のために、「多文化共生」という考え方に触れる

- ・SDGs…「誰一人取り残さない (leave no one behind)」
- (外務省HP: <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>)
- ・多様なルーツを持つ人を排除しない、拒絶しない、認め合う
社会 (外国人だけではない)
- ・問い=知らなかったこと
- ・「どうして知らなかったんだろう？」
- ・「どうして知ろうとしなかったんだろう？」
→こういう視点を持つことが問題解決の第一歩かもしれない

まとめ
探究活動に向けて

自分でやれ！ でもひとりではやんな！

振り返り

②
「日本に住む外国人」についての「問い」を作ることでわかった自分の「知らな
かったこと」について、なぜ「知らなかった」あるいは、「知らうしなかった」と思
いますか？

③
それを「知る」あるいは「知らうとする」ことで起こりうる、自分や自分のまわり、社
会の変化について想像して書いてください。→課題研究の意義となるもの

参考資料：

- ・岡本尚也『課題研究メソッド 2nd Editon』2021, 啓林館
- ・外務省「JAPAN SDGs Action Platform」
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>, 最終閲覧日 2021/11/18
- ・JICA 関西「教師国内研修」山中信幸(川崎医療福祉大学)スライド資料